



進化する議会へ

下野市議会議長 秋山 幸男

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、全国各地で地震、台風、そしてゲリラ豪雨等による甚大な災害が多発しました。本市議会では、大阪府北部地震・7月豪雨災害で被災された方々に対する義援金の募金活動を「道の駅しもつけ」で行いました。多くの皆さまからの心温まる募金に感謝とお礼を申し上げます。また、市議会としても、全国市議会議長会を通して義援金をお届けしました。被災された方々の一日も早い復興を心から願っております。

昨年本土を縦断した台風では、幸い本市に大きな被害はありませんでしたが、昨今の気象状況下でいつ発生するかわからない災害に対し、防災・減災の観点から議会として様々な政策を講じ、安全安心なまちづくりに努めてまいりたいと思います。

さて、4月23日に執行された市議会議員選挙では、8名の新人議員が誕生しました。新体制となり、期待と不安を抱えての議会運営となりました

若い方々が政治にもっと興味を持たれることを期待するとともに、今後は議会として、若い方々に対する主権者教育も視野に入れていかなければならないと思っております。

新体制となり会派制が導入され、9月の定例会では会派代表質問が行われました。各会派とも質問内容について討議をし、政策における課題等が検討されたことで、議員間の認識の共有と資質の向上が図られたことは有意義であったと思います。会派制導入により議会がより活性化され、市民の負託に応えられるよう努力してまいりたいと思います。

また、議会改革の一環として、これまで実施してまいりました議会報告会については、10月に「市民との意見交換会」として実施しました。各常任委員会からの報告の後、グループに分かれて、参加された市民の皆さまとの意見交換を行いました。これまでの議会報告会と異なり、かなり活発な内容となりました。いただいた意見・要望は今後の議会活動の参考とさせていただき、政策提言

たが、大きな問題もなく運営できておりますことは、皆さまのご協力の賜物と思っております。

6月の定例会には、「東海第二原発の稼働延長を認めない意見書の提出を求める陳情書」が提出されました。通常であれば所管する常任委員会に審議が付託されますが、原発については大きな課題と捉え、特別委員会を設置して議員全員で審議することとしました。原発の稼働延長に反対あるいは賛成、それぞれの立場からの説明を受け、特別委員会で慎重に審議したことは、今後の議会活性化につながってくると思っております。

また、8月20日には第2回目となる中学生議会が開催されました。多くの中学生議員にとっては初めての経験ですが、中学生とは思えない目線で、私たち議員が気づかないような観点から質問する姿は、将来を担う若者として頼もしく感じました。時間的余裕があれば、再質問することでさらに議論を深めることができるのではないかと思います。選挙権年齢が18歳に引き下げられ、初めてとなる市議会議員選挙の投票率は46.33%でありました。この中学生議会を通し、

等につなげていければと思います。また、さらなる議会の充実のために「議会活性化特別委員会」を設置しました。議会改革及び議員活動の充実強化等の5項目について、私議長から諮問し、現在、特別委員会において審議されているところです。

より親しまれる市議会を目指すため、11月29日には、市文化協会との共催により議場コンサートを開催し、「白鳳琴の会」の皆さまに演奏いただきました。大正琴のすばらしい音色に定例会開会前の緊張した心が癒されました。「琴の糸 張りすぎてダメ たるんでダメ ちょうどいいあんばいのときに ちょうどいいあんばいの音が出る」という相田みつを氏の言葉がありますが、私たち議員の活動も、日々一弛一緩、無理して背伸びせず、着実に一步一步前進していきたいと思っております。

結びに、新しい年が、市民の皆さま一人ひとりに幸せが実感できる年となりますことを心から祈念し、新年の挨拶といたします。